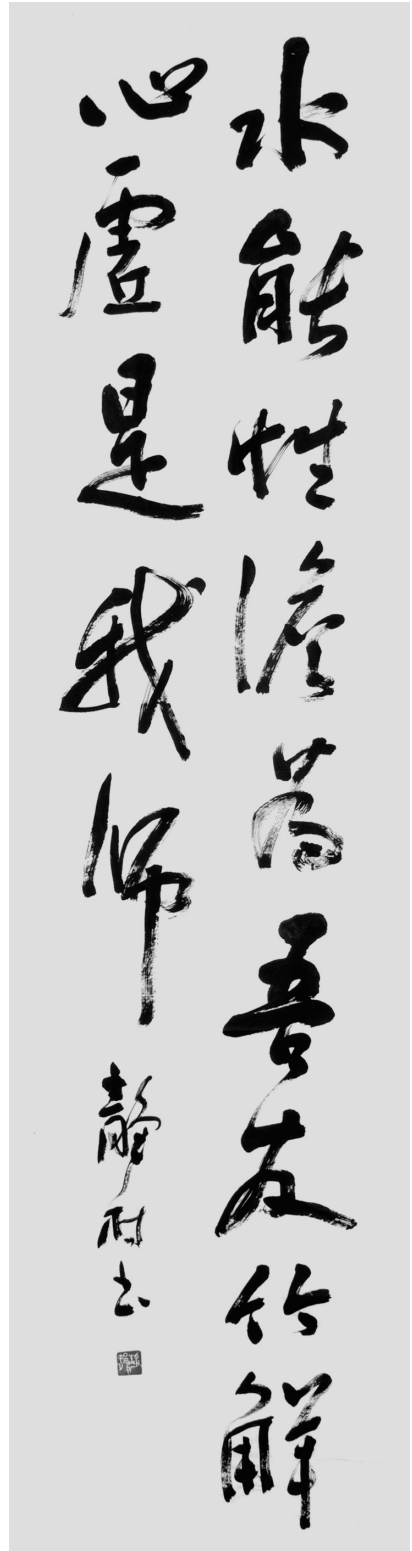


A

鈴木静村書

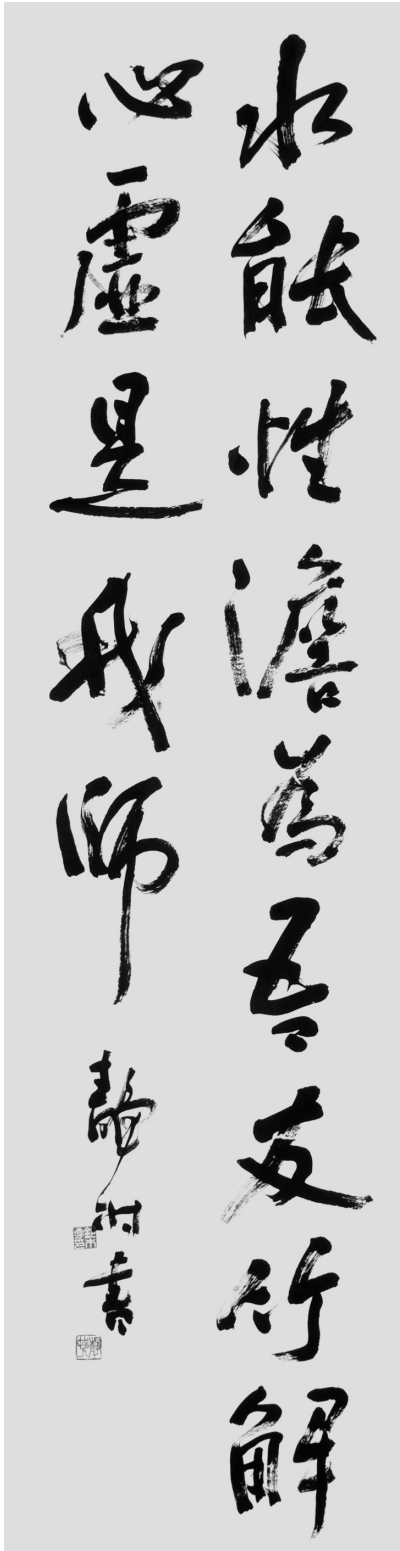
水能性澹爲吾友 竹解心虚是我師 (白楽天)
水能く性澹吾が友と爲す、竹解く心虚是我が師。



B

概観

A作の「吾」掛けて眺め、中央部のかすかな一筋の空間と、「口」の僅かな空き。これが潰れたら当然の失敗作。Bの「吾、是」にも窺えるが、特にこの「吾」は救われた表出でホット感ノ想うに今回作は、洗硯したばかりの羅紋(12インチ)で磨墨。この時の和墨の微粒子と言紙との融合の快さからであろうか。久しぶりに磨墨の爽音に喚び澄まされたひとときであった。



主な文字について

澹 A一画目入筆に甘さ。爲 AB共末画の処理慎重に。吾 墨継ぎ。解 末画はやや長め。虚 虎構えの筆順、①左払いを二筆めに、②左払いを最後に、作例は私の好みで両作②。是 墨継ぎ。末画の払いのびやかに。我 右斜画は主要画。A末画点、無雑作一工夫を。B末画の二画連はくどい。打開あれ。師 末画でスッキリと成功させたい。

訳：水はよく性が淡白であるから吾が友となり、竹はよく心にわだかまりがないから我が師とする。

予告 (十一月二十二日締切)

寒衣未授霜初落

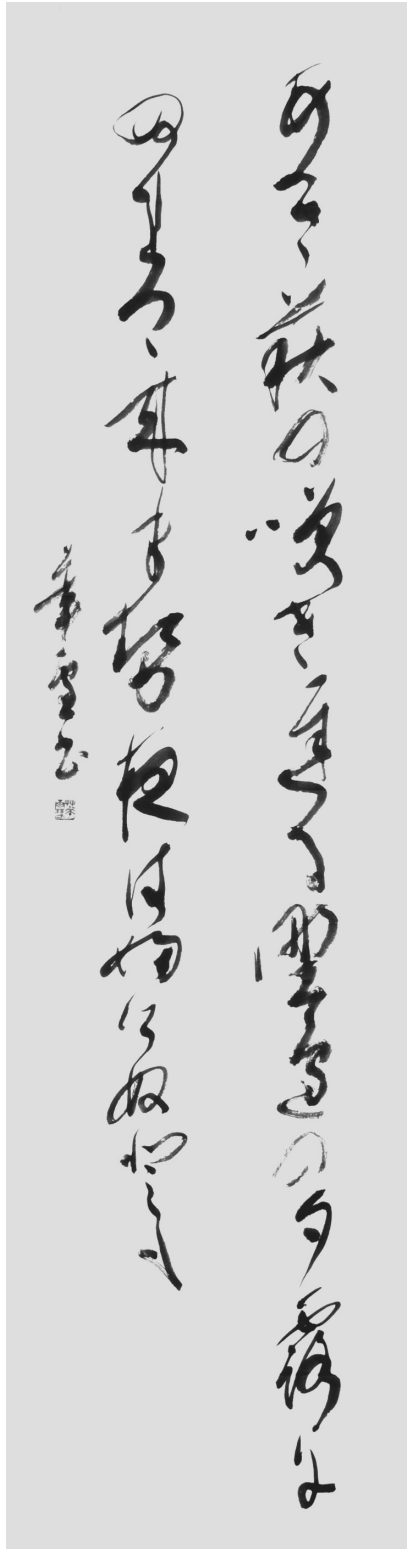
好雨難逢酒獨沽 (吳貽詠)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

A

平岡華雪先生書

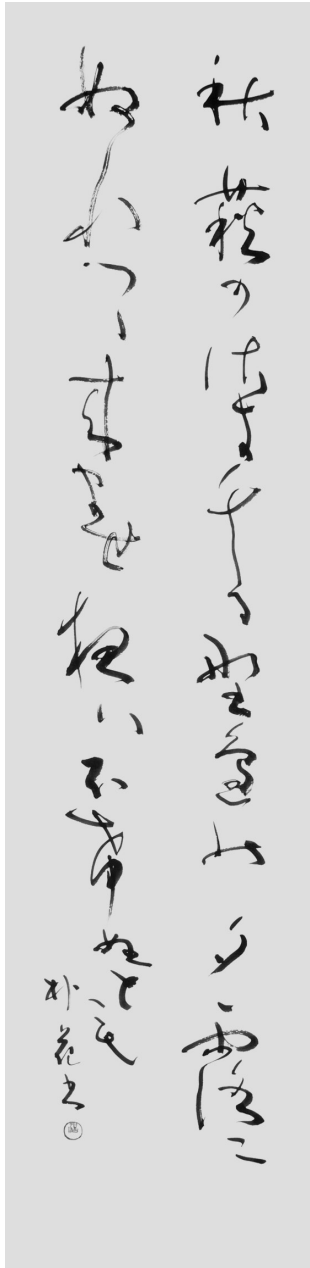
秋萩のさきちる野辺の夕露にぬれつゝきませ夜はふけぬとも (新古今和歌集 人麿)
あき萩の咲き遅る野邊の夕露にぬれつゝ来ませ夜は婦介ぬ登も



B

向山朴花先生書

秋萩の佐支干る野邊能夕露二ぬれつゝ来ませ夜八不希怒と毛



学 び 方

作品づくりは先ず、作者の時代と歌意を知り、心構えをします。下書の段階で、文字の大小・太細・伸縮・潤濁を基本に、放ち書、連綿を布置よく取り入れてみます。「言葉の持つ意味を大切に」とは、私の師匠の教えです。今回は古典的な情趣を失わぬよう、漢字の部分も、仮名作品に馴染むよう、簡素に柔軟に表現したいものです。二行書は一般的ですが、逆に二行を相応させる難しさがあります。書き出しと結句で墨を入れ、中心部分でふくらみを見せます。結句は、次第に右に寄せて引き締め、落款・雅印も作品の効果につながる一部となります。歌意：秋萩の咲いては散りゆく野辺、その野の露に濡れながらも出下さい。あなた。たとえ夜は更けてしまっても。

(秋相聞)

作者の柿本人麿は、飛鳥時代の歌人。三十六歌仙の一人。後世、山部赤人と共に、歌聖と呼ばれ称えられた。人麿の歌は、讃歌、挽歌、恋歌に特徴があり、その歌風は、枕詞、序詞、押韻(韻をふむ)を駆使して、格調高い。万葉集に多数収められ、新古今和歌集では、十八首程。その殆どが、作者未詳である。(新古今和歌集については書誌722号参照)

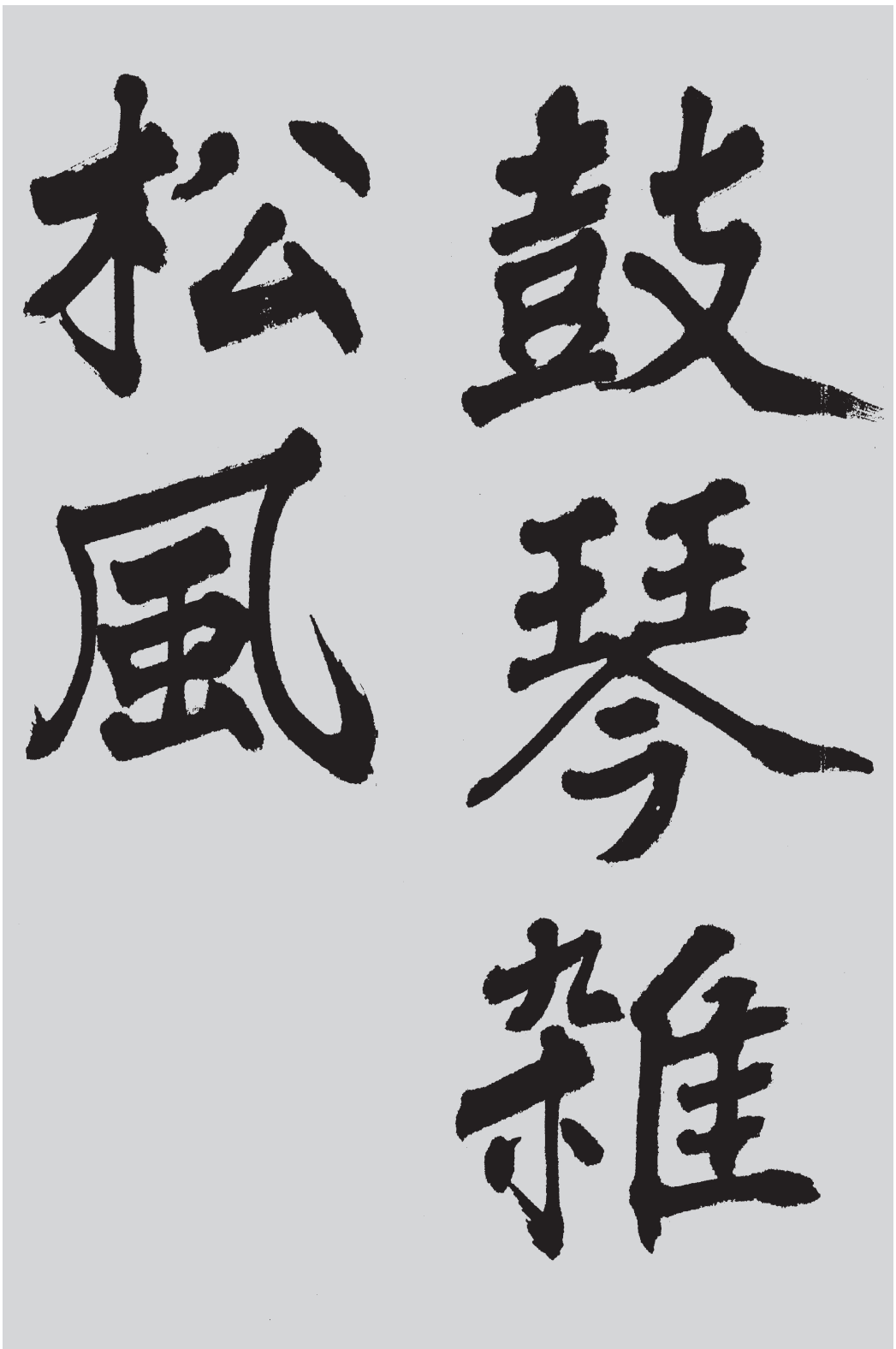
予告 (十一月二十二日締切)

道のべに立てる夏草あきらかにその根の見えて秋さりにけり (窪田空穂)

- ◆注意
 - ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

平岡華雪先生書

琴を鼓して松風に雑まじわる。(葉顛)

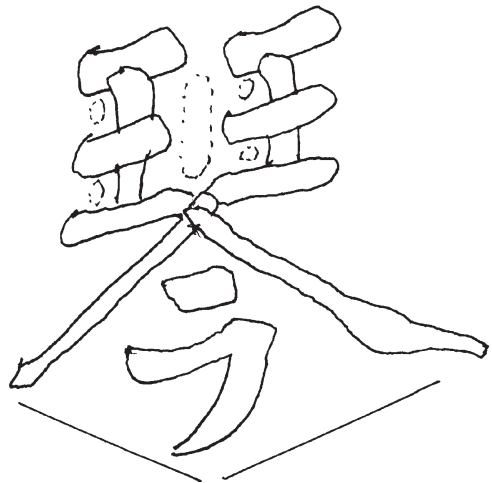
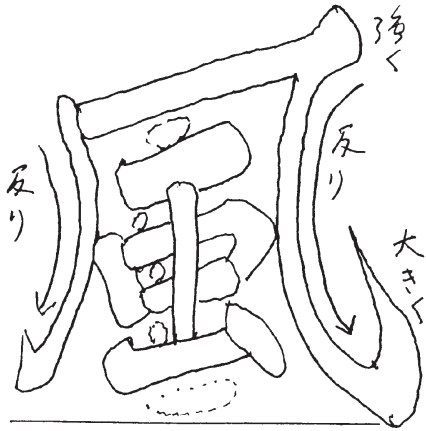
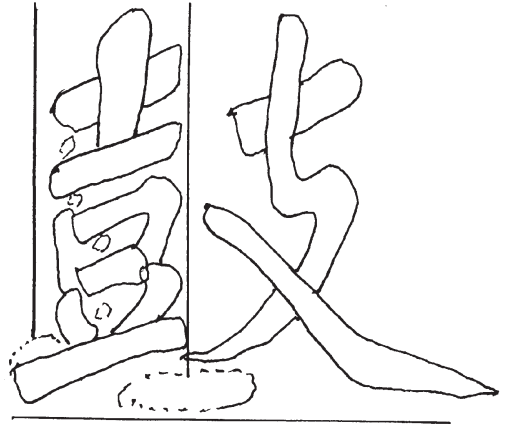
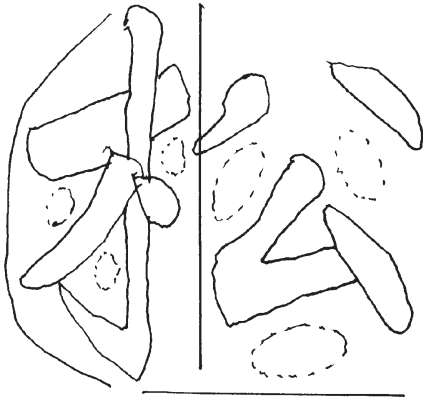


訳：(山間の石上に坐して書を読み、)松風に和して琴をかなでる。

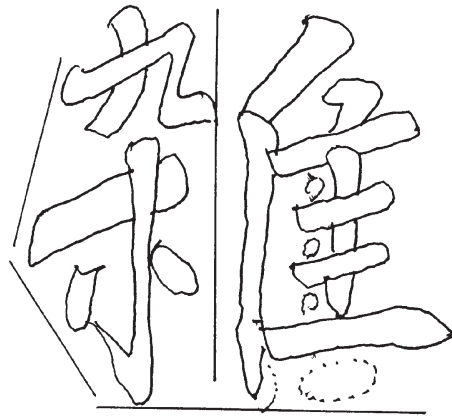
▼注意：…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

- ① 漢字部
- ② 支部名または都道府県名
- ③ 氏名または雅号
- ④ 新

会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。

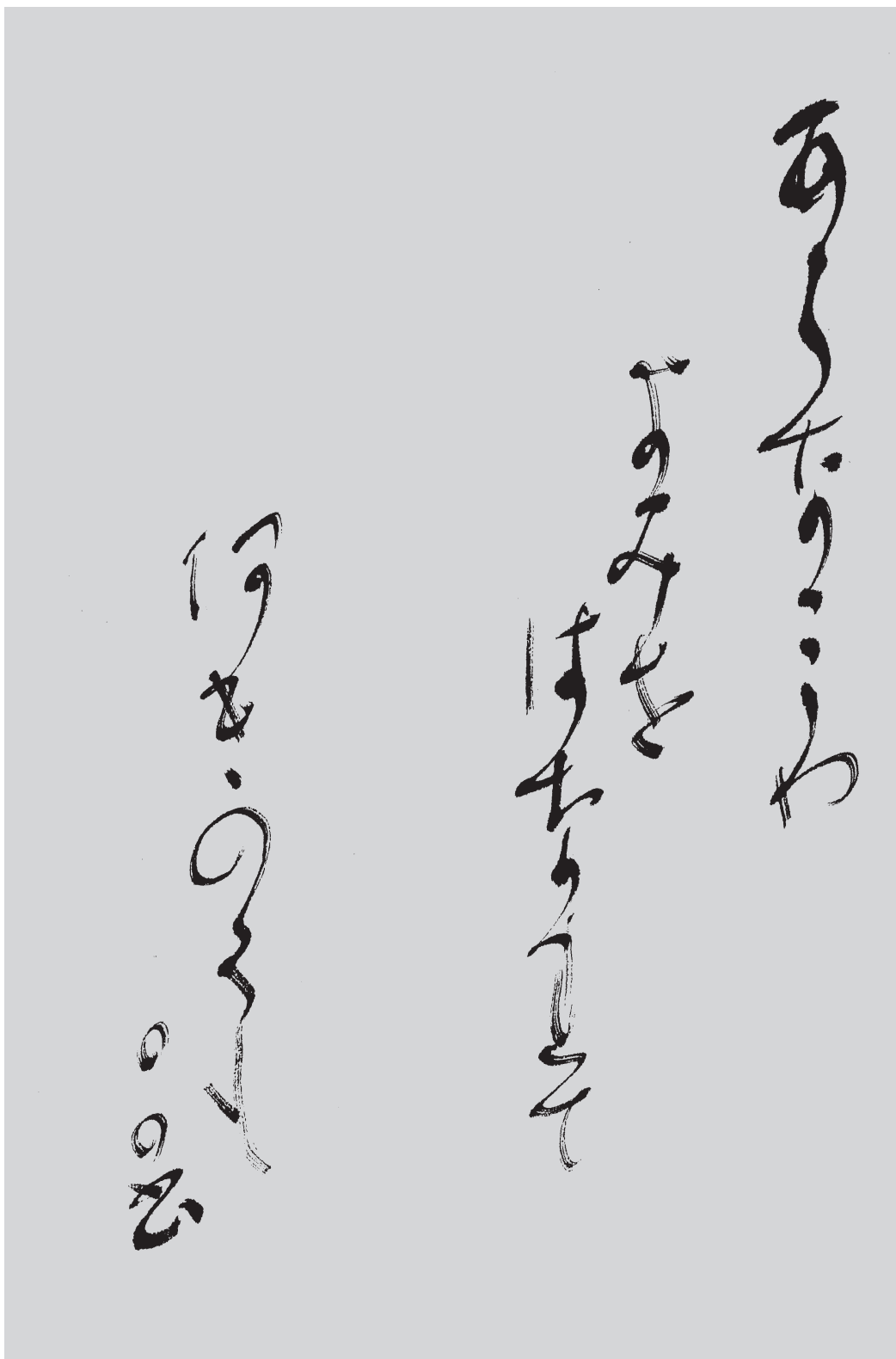


いさゝか、横画の重なり
 右行三字に横画の重なり、(壹、
 珪、佳)画間はほぼ均等の構
 成とするが、所々右細・剛湯を
 通させて立体感を醸成し、
 “動き”ある表出へ即直結させ
 たいところである。



平岡華雪先生書

荒浪や波を離れて秋の雲(暁台)

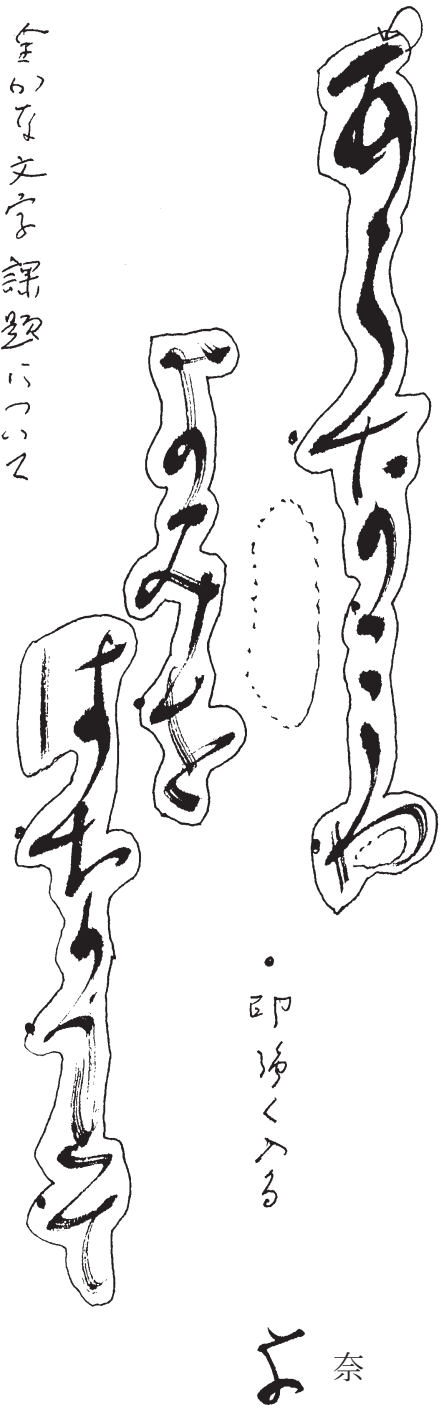


▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

- ① かな部
- ② 支部名または都道府県名
- ③ 氏名または雅号
- ④ 新

会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。

全かな文字課題について
 漢字を含まない全かな文字
 課題。前にもこれと同類課題の
 際、融水た筆管先を独自の
 表出。この種の課題は、初歩
 段階には、連続習熟には
 格好の素材。一方連続手法
 に練習のラック者は、かなは手取通うとて（融水自由）自己表現を深め
 ばいい。制約な中での新味への挑戦も、また新発見へ！



即ちく入る
 な

神野 溪雲 先生 書

小窓半夜青燈雨 幽樹一庭黃葉秋 (眞山民)
しやうそうはんやせいでんう あゆみ ゆうじゆいつていこうあき

小窓半夜青燈雨 幽樹一庭黃葉秋

訳：夜半の小窓に降る雨は灯の光をしめらせ、しずかな木々は庭一面の黄葉を呈して秋もさなかである。

石島 柏美 先生 書

雨晴れて清く照りたるこの月夜またさらにして雲なたなびき (万葉集 大伴家持)
あめはれて 清く 照りたる この 月夜 また さらにして 雲な たなびき

雨晴れて清く照りたるこの月夜またさらにして雲なたなびき

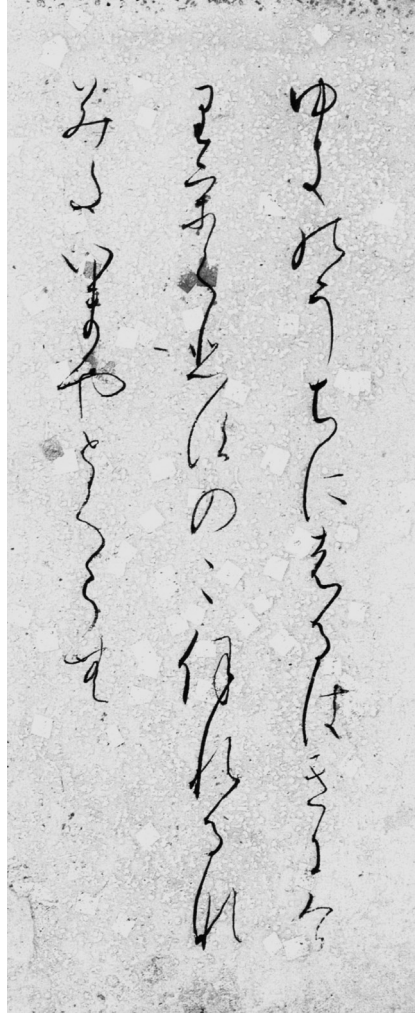
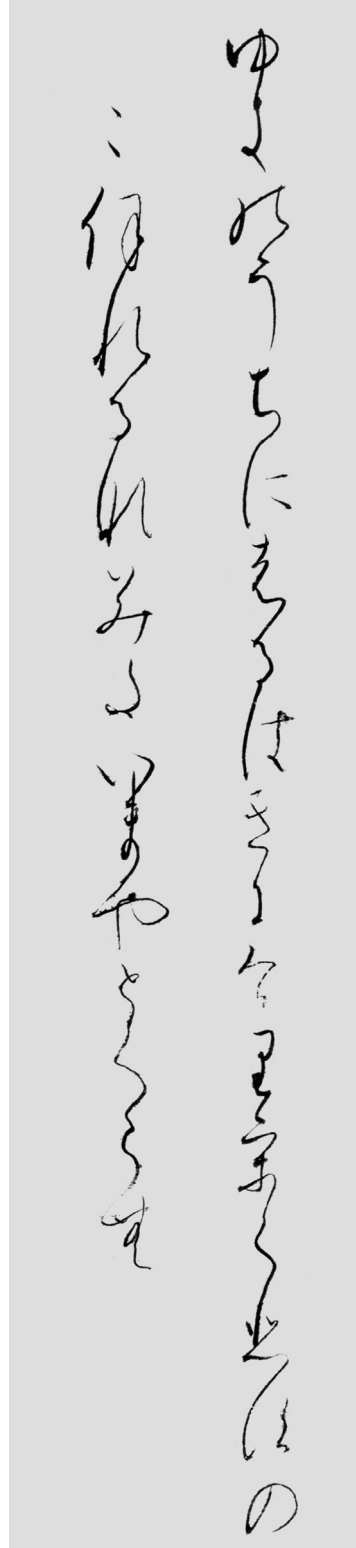
柏美 書

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料500円）

題 課 部 書 臨 幅 条

宮 絢子先生担当 元永本古今集

※条幅臨書部は出品料無料です。



△元永本古今集について▽

平安時代に醍醐天皇の命により紀貫之らによって編纂された日本初の勅撰歌集が『古今和歌集』です。平安時代の能書家の手による古今和歌集はさまざまに現存しています。(例・行成筆と言われる関戸本古今集など)しかし、殆んどは断片的なもので、巻第

一から巻第二十まで完成本として存在しているものは『元永本古今集』なのです。

書いた人は源俊頼と伝えられていますが、藤原定実(一〇六三〜一一三二?)という説もあります。定実は、平安時代後期の公卿で、藤原行成の曾孫にあたります。

ゆきのうちにはるはきにけりうぐひすの
こほれるなみだいまやとくらむ

ゆ支能うち^に者^るは^き尔^介里^宇く^悲須^の
こ保^{れる}那^美多^いま^やと^{くら}無

△学び方▽

①小さな結び



結びに余白を持たせないことにより、上品さをかもし出しています。

②強調した連綿線と縦画

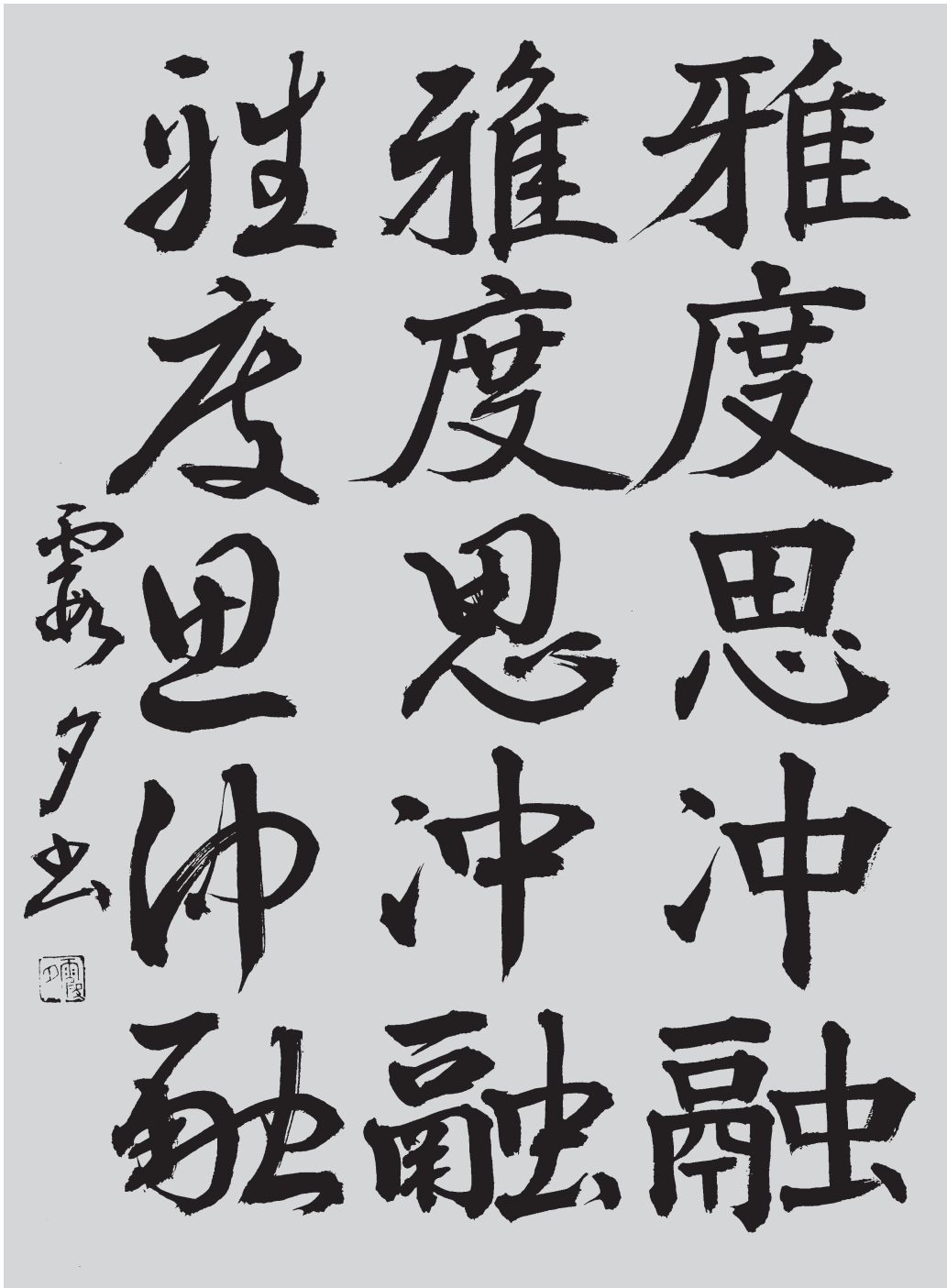


連綿線は緊張感をもって強調されています。太目で強調された縦画は、側筆のなせる技と思われま

◆注 意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

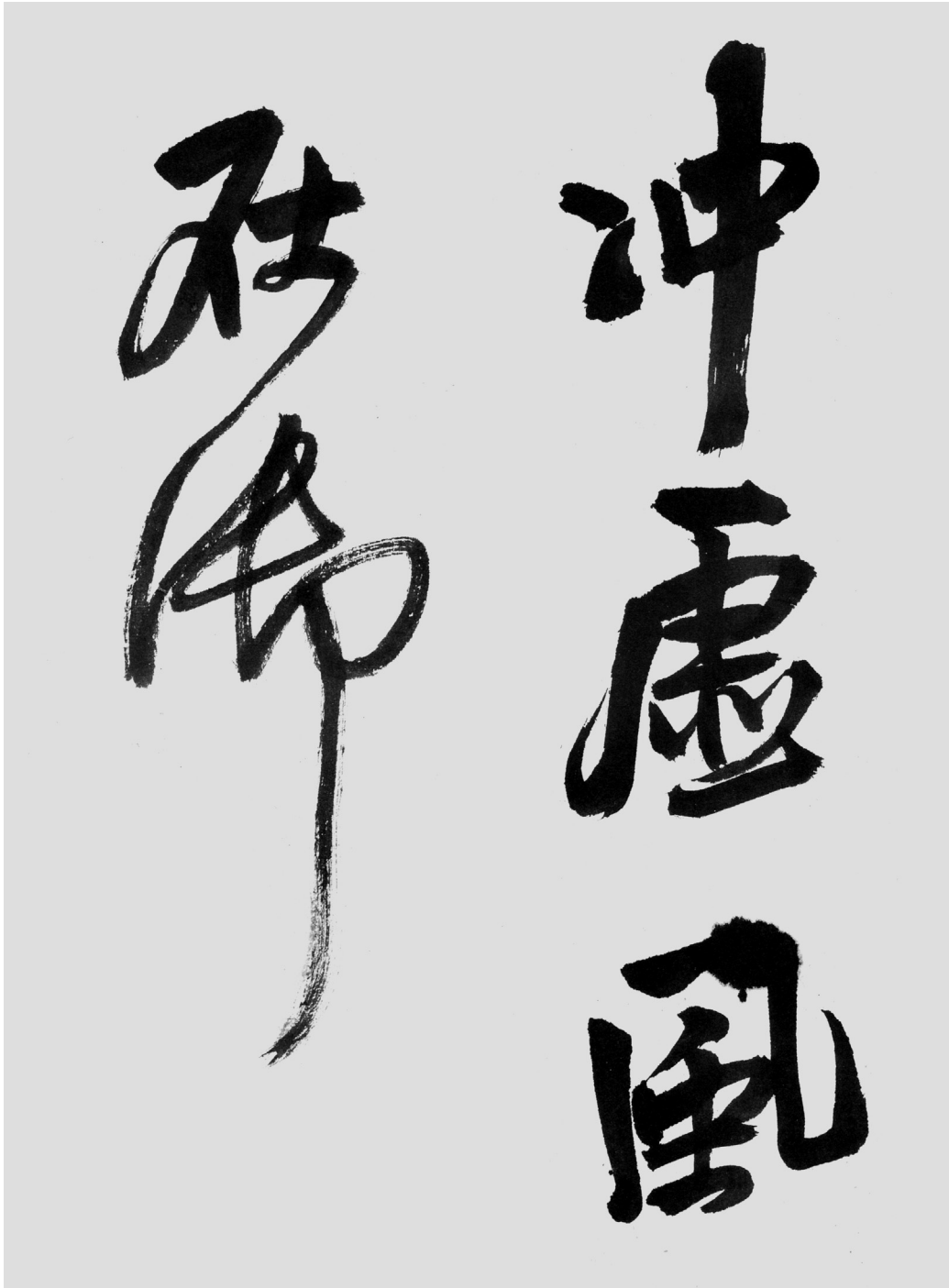
外川霞夕先生書

雅度思冲融（高適）
雅度冲融を思う。



訳：正しくみやびやかなる度量、おだやかにくつろがんことを思う。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。



王
鐸 (明)

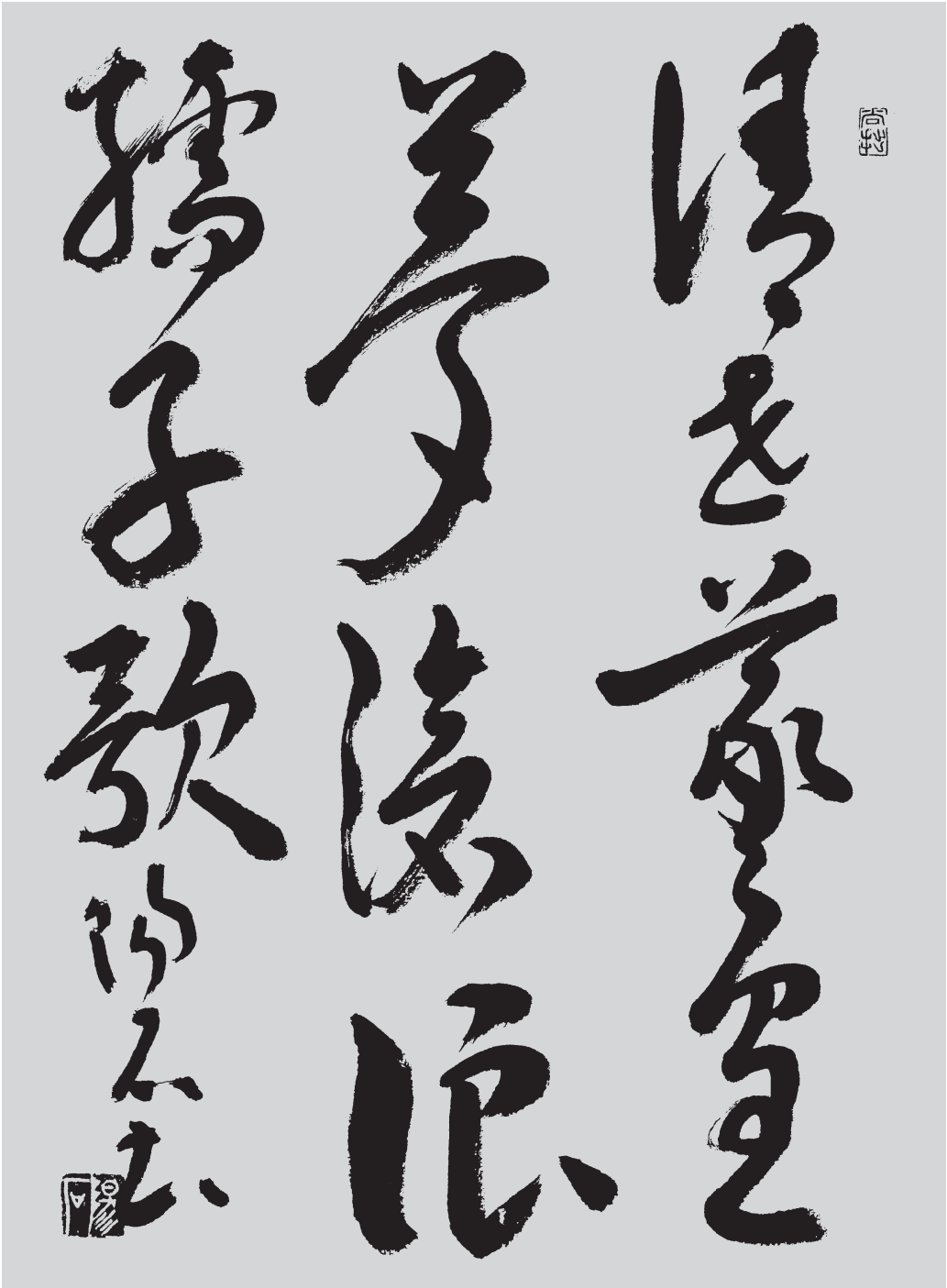
冲虚風在御
冲虚風は御きに在り、

中国法書選 (二玄社)

◆随意部参考として出品してください。

難波陽石先生書

清世義皇夢 滄浪孺子歌（歸子慕）
清世義皇の夢、滄浪孺子の歌。

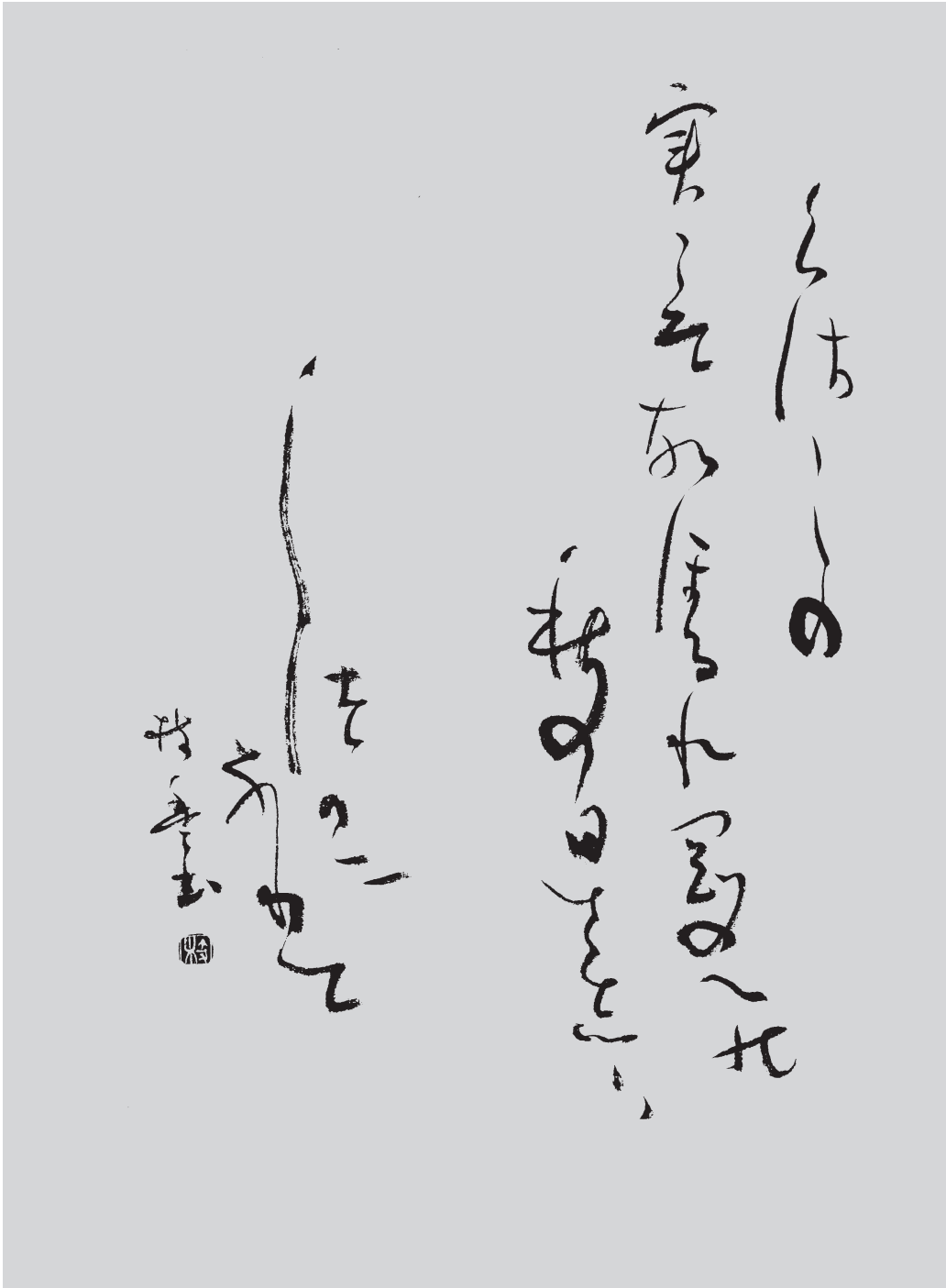


訳：時清く無事にして太古の伏羲氏の時を夢みるが、一方には漁父が唱える滄浪の歌を聞く。

添削又は手本希望者は本会規定により、難波陽石先生（〒663-8006 西宮市段上町5-5-18）に直接お申し込みください。

鈴木枝豊先生書

くさぐさの実こそぼるれ岡のへの秋の日ざしはしづかになりて
久佐、の實こそ故ほるれ岡のへ能秋の日さ志八し徒可二奈利て
(斎藤茂吉)



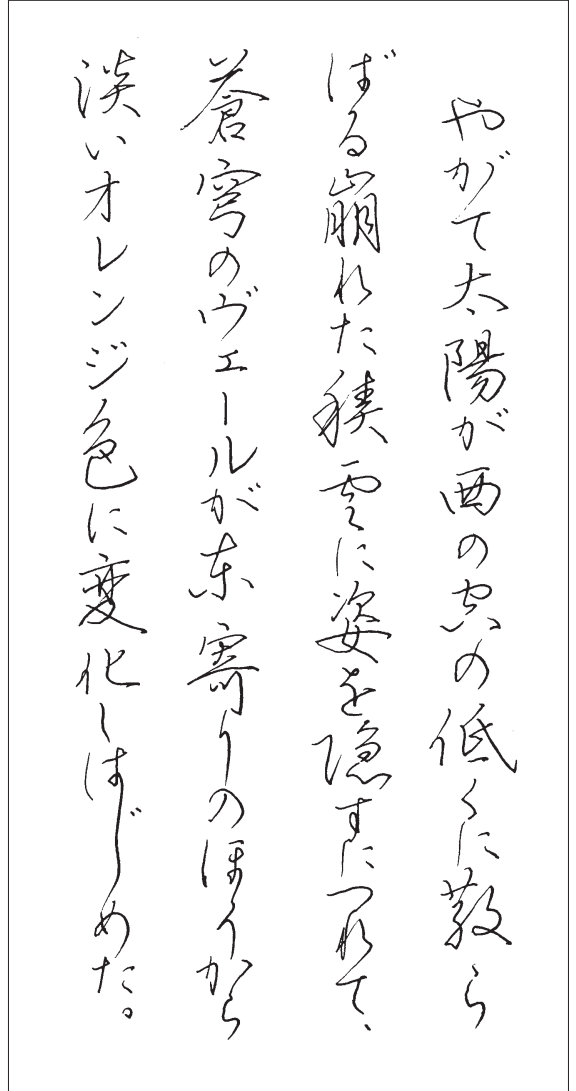
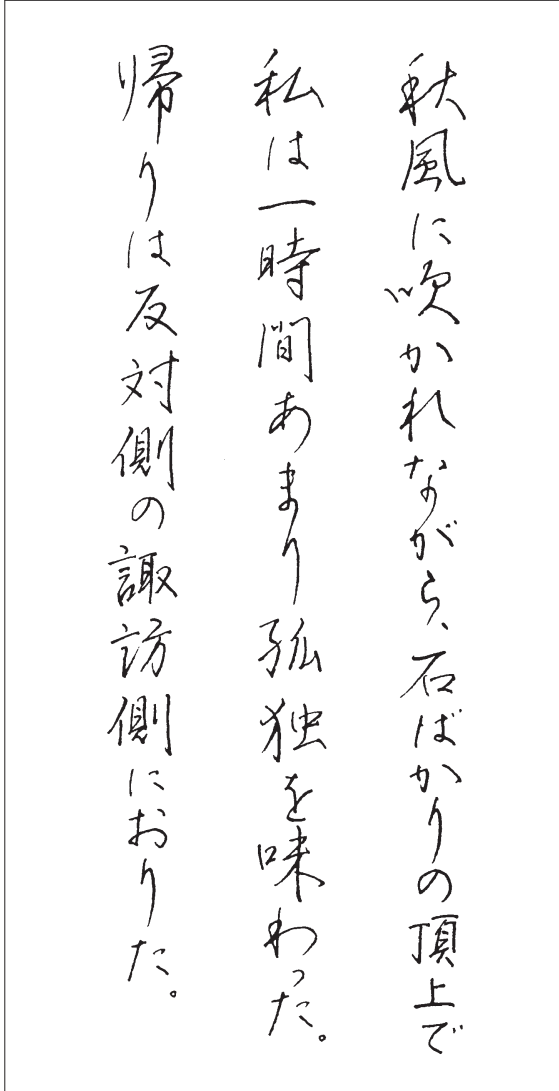
添削又は手本希望者は本会規定により、鈴木枝豊先生（〒154-0012 世田谷区駒沢1-2-28-205号）に直接お申し込みください。

湯澤春翠先生書

路川千曄先生書

課題2 (初段格以下)

課題1 (初段以上)



課題1 (初段以上)

やがて太陽が西の空の低くに散らばる崩れた積雲に姿を隠すにつれて、蒼穹のヴェールが東寄りのほうから、薄いオレンジ色に変化しはじめた。
〔「人生の星座」柳田邦男〕

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (2) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に、次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (3) 会員は無料・会員外は四〇〇円
- (4) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと)。
- (5) 課題1 六〇〇円
- (6) 課題2 三〇〇円

課題1 路川千曄先生 〒二〇七〇一三

課題2 湯澤春翠先生 〒三七一〇二六
前橋市城東町一ノ二九ノ五

課題2 (初段格以下)

秋風に吹かれながら、石ばかりの頂上で私は一時間あまり孤独を味わった。帰りには反対側の諏訪側におりた。
〔「日本百名山」より蓼科山 深田久弥〕

研究部課題

(十月二十二日締切)

(課題)

守拙

(意味) 世渡りが不器用な性質を、それなりに守って自分の分に安ずること。

▽注意

- (1) 半切1・2横使用
 - (2) 書体は自由
 - (3) 落款は「後山書」と書き入れること。
- ▽出品要項
- (1) 資格—推薦、準推薦合格者(漢字・随意・かなのいずれかで準推薦以上であればよい。また同人、準同人も歓迎)
 - (2) 締切—十月二十二日必着
 - (3) 成績発表—書廷十二月号誌上
 - (4) 出品料—八五〇円同封
 - (5) 出品方法

ア、出品は一人一点とする。
イ、左の出品票(私製)を作品の左下にぶら下げて貼付する。

のりしろ	
研究部	
10月22日締切	
10センチ	(支部名)
	フリガナ
	(姓名(号))
	5センチ

※出品票は審査前に作品から切り離して処理するため、小さすぎないように注意して下さい。
※出品票は必ず楷書で正しく、ハッキリと記入すること。
※名簿作成の都合上、姓名(号)にはフリガナをつけて下さい。
※バーコード券は貼付しない事。

研究部への積極的出品を

—漢字部門賞・かな部門賞増設—

研究部は、本会の高位段階に当たる「推薦・準推薦」者が、より深く、より密度の濃い学書に取り組めるよう、主体的・意欲的に自己開発を推進できる場となっています。出品有資格者は奮って新研究部にチャレンジしてください。

対象 推薦・準推薦合格者

(同人、準同人も歓迎)

課題 「研究部課題」として活字で提示

締切り 毎月二十二日

審査 二名の審査員による採点方式

発表 得点上位から秀逸、佳作を選び、作品の写真を発表し、他は名簿欄に掲載

年間賞 年間を通じての優秀者には「書廷大賞」並びに「書廷準大賞」を授与し

賞揚する。

部門賞 漢字部門賞

(漢字課題五回出品者対象)

かな部門賞

(かな課題五回出品者対象)

特典 年間賞、部門賞取得者は同人、準同人並びに学生部審査員への道が開かれる。なお、準推薦でこの賞を授与

された者は、推薦への昇格資格者とす。

出品料 八五〇円